

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600350		
法人名	日総ふれあいケアサービス(株)		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム 柘		
所在地	苫小牧市青葉町2丁目9-10		
自己評価作成日	平成24年11月15日	評価結果市町村受理日	平成24年12月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0193600350-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年12月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が穏やかでゆとりのある毎日を過ごせるよう環境作りに配慮しています。

四季がわかるよう季節ごとの飾り付けや行事を行っており、外出支援や個別にての外出支援を行っており季節感を肌で感じてもらうよう支援しています。

建物横には花壇、裏には畑があり早春よりお花を眺め、秋には、じゃがいも、まめ等の収穫が楽しめます。

近隣に協力医療機関があり冬でもロードヒーティングが備わっているので安心して通院する事ができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ふれあいの里 グループホーム柘」は、JR青葉駅から徒歩数分の静かな住宅地に位置している。近隣には、協力医療機関や災害時の協力関係を結んでいるサービス付き高齢者住宅があり、家族や利用者の安心にも繋がっている。建物は利用者のプライバシーに配慮した回廊式で、居間と食堂が独立しており、ゆったり過ごせるような造りになっている。2年目を迎える現在の管理者は、今まで築き上げた家族や利用者との信頼関係を大切にしながら、働きやすい環境整備を目指して日々取り組んでいる。また法人のバックアップ体制の下、各職員の研修にも力を注ぎ、介護技術の向上を目指している。職員は、連携を深めながら各利用者の情報を共有して温かなケアを行っている。運営推進会議の充実を目指し、参加者にアンケートを実施してテーマを設定するなどの工夫を行っている。近隣の保育園とは、コンサート見学に訪問したり、園児が来訪して歌の披露を受けたり、手紙をもらうなどの交流を行っている。その他にも、小中学校や児童会館の資源回収に協力したり、地域のボランティアの訪問を受けるなど、地域との交流を大切にしながら、その人らしい生活を重視したケアを行っているグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(1階アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新しい理念から1年がたち理解、共有しながら徐々に実践している	「地域との交流を大切にして、その人らしく暮らせるように、支援し共に生活して行きます」という、独自の基本理念を作成している。理念を玄関や事務所に掲示し、各職員は理念を書いた携帯カードをで内容を確認しており、自己評価を機に更に認識を深めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の催し物に参加したり保育園との交流、近所の住民とは、挨拶を交わしている	近隣の保育園のコンサートに出かけたり、園児の来訪を受け歌を披露してもらうなどの相互交流が行われている。小中学校や児童館の資源回収にも協力している。カラオケやひよっこ踊りなどの、ボランティアの来訪もある。近隣から頂き物をする事もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも見学できるよう配慮し、なるべく地域との交流を大切にして理解をしてもらっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族、町内会役員の方、市の担当者、地域包括センター、職員などに出席いただき状況報告、意見交換をしサービス向上にむけ意見を取り入れている	運営推進会議の充実をめざして、参加者にアンケートを実施したり、テーマの設定も工夫している。現状や外部評価結果の報告、災害対策についての話し合い、一般救命講習などを行っている。会議の案内と議事録を全家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への出席依頼 その他疑問点には説明を受けたり相談をさせていただいている	制度など法律的な事項は、本部担当者が市役所に相談している。直接利用者に関する事項については、管理者が市役所の担当部署を訪問したり電話で相談して、連携しながらサービスの向上に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の玄関、ユニットの出入り口は、施錠はしていない。身体拘束は、行なわれていない	法人として「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を含むマニュアルを整備しており、外部研修参加後の報告会も行っているが、禁止の対象となる具体的な行為の理解のための勉強会などは十分といえない。玄関は夜間のみ施錠し、日中は自由に入出入りすることができる。	外部研修などを活かしながら、事例に基づいた身体拘束についての勉強会などを行い、全職員が理解を深められるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修へ参加しその他資料も閲覧する等防止に努めている		

ふれあいの里 グループホーム 柗

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会がある場合は、研修に参加している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に理解、納得をしていただいた上で契約はしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見ボックスを設置している。運営推進会議への出席の際や日常の来訪時に意見要望を聞き対応している	法人で、家族アンケートを実施している。また、電話や面会時に利用者の状況を細かく報告して、支援方法などについて具体的に家族の意見を聞いている。家族の意見や要望は支援経過記録や申し送りノートに記録している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ミーティングを開き意見交換し提案を運営に反映させている	管理者は、日頃から職員の意見や提案に耳を傾けると共に、個人面談も行っている。掃除や勤務体制などについても提案されることがあり、その都度検討して運営やケアに活かしている。居室、備品、通信など職員間で役割分担をして、仕事を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度7月より、介護分野のみの運営の会社になり職場環境、条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修、講習には、可能な限り参加できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での研修、行事等で相互に交流することがあり資質向上に役立っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様が、安心して不安や要望を話すことができるよう関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の入居者様への思いや困っている事などを聴き安心できるよう関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様、御家族のニーズの優先順位を把握しサービスの提供ができるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に基づき支援をしながら共に暮らしていけるよう努めています		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族との情報交換を行いながら共に支えていくことができるよう関係構築に努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の来訪時にはゆっくりと過ごせるように配慮し行きつけの床屋に行く等、途切れないように支援している	自宅近くの知人が交互に来訪する利用者もおり、お茶などを提供して居室でゆっくり過ごしてもらえるよう配慮している。携帯電話を持っている利用者には、操作方法などを教えて支援している。家族の支援の下、お寺やお墓参り、買い物などに出かけている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の個性、相性を把握し関わり方に配慮しながら共同生活を送ることができるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係を断ち切らないように相談等があれば支援している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	直接本人に確認したり難しい場合には、日常の言動や表情から汲み取るよう努めている	利用開始時に、家族から生活歴などを聞き取り、基本情報シートや暮らしの情報シートに記録している。新たに得られた情報を暮らしの情報シートに随時追記しているが、より適切なアセスメントの記録方法を検討している。	アセスメント方法の確立と、定期的な見直しを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人のお話や御家族からの情報により生活歴等の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や観察により現状の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、御家族の意向をもとに月1回のカンファレンス、モニタリングを行ない職員の意見等を反映し介護計画を作成している	新規利用者の介護計画は、1か月で見直しを行っている。その後の定期的な見直しは、本人や家族の意向を聴き取り、毎月のモニタリングや介護記録を基に、計画作成担当者が3か月毎に作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に訴えや心身の状態、ケアの実践状況を記録し、連絡ノート、ミーティングを通して情報を共有し介護計画の見直しに役立っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの変更に対応しサービスを提供できるよう取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、近隣の保育園、地域住民など交流あり暮らしを楽しめるよう支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院やその他のかかりつけ医へも通院介助をしている。ご家族が対応する方もいる。受診記録を作成し通院時持参し情報の共有を協力病院ととっている。	かかりつけ医の受診は、家族対応を基本としている。家族が同行する時は、利用者の状況がわかるように支援経過記録を持参してもらっている。受診結果は、家族から口頭で聴き取り、通院(往診)記録に個別に記録している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週間に1度訪問看護師による健康管理を行っている。その際に相談やアドバイスをいただいている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、できるだけ病院に行き担当看護師などとも情報交換を行っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですること十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所としての方針を説明し、了解を得た上で契約している	利用開始時に「入居様が重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、医療行為が常時必要になった場合や経口摂取が出来なくなった時は、事業所での対応が難しい旨を家族に伝えている。医師の判断の下、関係者が話し合い、方針を共有して行く事としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命は、全員受講している。2年毎に再受講し実践力を身につけるよう努めている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間の火災を想定し消防の方に参加いただき避難訓練を実施。町内会の方にも災害時の協力をお願いしている	消防署の協力の下、昼夜の火災を想定した避難訓練を年間2回実施している。地域の民生委員は見学参加をしている。職員の救急救命訓練も定期的を受講している。食料などの備蓄品は、法人と共に整備を進める意向である。	地震や水害時の対応について職員間でシミュレーションなどを行うと共に、災害時の地域との役割分担を確認する機会が持たれるように期待したい。利用者に適した食品の備蓄整備が行われるように期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけの仕方や会話の中でも尊厳を守るように心がけている。個人情報、他者の目にふれないように注意を払っている	利用者への呼びかけは苗字か名前に「さん」付けを基本とし、対応で気になる点はお互いに注意している。記録類は事務所に保管し、記録する際も利用者から見えにくいようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴えがある場合は、傾聴し困難な方は、表情、日常の様子から思いを汲み取り支援ができるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースが守られ希望に添えるよう出来る限りの支援を心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容にて定期的にかット、顔そりを行なっている。その他好みの理美容へ行く支援をしている。月1回のボランティアによるメイクも進んで参加されている方が多い		

ふれあいの里 グループホーム 柘

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回の昼食作りは、入居者様の希望に添って献立を決めている。日常的に準備や後片付け、調理の一部と一緒にこなしている	献立は法人が作成しているが、月1回利用者の希望に沿ったものにし、季節を意識した献立としている。調理や後片付けを手伝う方もおり、職員も一緒に同じ食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合った食事量や調理形態に考慮し1日の食事摂取量、水分摂取量を把握し支援に役立てている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や、毎食後に声かけや一部介助にて。義歯の方は夜間消毒するなど清潔を保つことができるよう支援している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の記録から排泄パターンを把握し訴え時や表情、時間により声かけ誘導したり、失禁が多くなった方にもさりげなく声かけをしている	排泄記録でパターンを把握し、誘導が必要な方は、プライバシーに配慮しながらさりげなく誘導している。使いやすいトイレが各階に3か所設置されている。日中はなるべくオムツやリハパンを使用しないように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や体を動かすことに気をつけまた主治医から処方された下剤も使用しながら予防に取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は決まっているが全員が清潔を保つことができるように週2回以上の入浴ができるよう支援している	日曜日以外の午後の時間帯で入浴ができ、各利用者が週2回以上の入浴している。拒否がある場合は時間を変えたり、汗をかいてもらうなどの工夫をして誘っている。浴室で一緒に歌を歌ったり、入浴剤を使って楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人のペースで休息や睡眠がとれるよう意思を尊重している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の管理から服用の介助まで間違いがないように徹底するよう心がけている。薬の説明書は、いつでも確認できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の得意な事を引き出し役割や楽しみを持てるよう支援している		

ふれあいの里 グループホーム 柗

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日散歩を続けている方もおりできるだけ外出の機会を持つようにしている。年に数回は全員で外出行事は、行っている	日常的には近くの公園に散歩に出かけたり、ホームの畑を見に行っている。近くの保育園やモデルルームを見に行くこともある。年間行事では花見や港まつり、紅葉観光、市役所展望台、ショッピングセンターなどに出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている方には一緒に買い物に行き支払いをしていただいている			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えがあった場合には、支援している。手紙の代筆をすることもある			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、季節ごとに飾りをし色や明るさ、温度や湿度にも配慮している	共用空間は真ん中に中庭と和室、居間があり、周りに居室や食堂、トイレなどが配置された造りである。床暖房で暖かく、湿度も調整されている。壁には季節の装飾、行事の写真、子供達からの手紙などが飾られ、親しみやすい雰囲気を作っている。居間と食堂が分かれ、利用者はそれぞれ好きな場所でくつろぐことができる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	所々に椅子を置き独りの時間や休息がとれるよう配慮している			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の好みの物や馴染みのものを置く等工夫をし温度や湿度にも配慮し過ごしやすいように工夫している	居室には利用者が持ち込んだテレビや仏壇、たんすなどが自由に置かれ、居心地よく過ごせる場所となっている。壁にも家族の写真やカレンダー、時計などを自由に飾ることができている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっている。手すりもあり生活に危険がないよう物の設置にも配慮している			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600350		
法人名	日総ふれあいケアサービス(株)		
事業所名	ふれあいの里 グループホーム 椋		
所在地	苫小牧市青葉町2丁目9-10		
自己評価作成日	平成24年11月15日	評価結果市町村受理日	平成24年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「1階 ユニット」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0193600350-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成24年12月3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(2階アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に目にする所に理念が掲げられており入社時には、個々に理念書を配布されいつでも見れるように実践に繋げている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のお祭りなどの行事に参加させていただいたり地域の保育園との交流もある		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも見学できるよう配慮しなるべく地域との交流を大切にして理解をしてもらっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度の運営推進会議では、行事、事故報告、問題点を報告し、意見をいただき、サービスの向上に活かしている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議には、必ず出席していただき協力関係を築くよう取り組んでいる		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員で身体拘束をしない取り組みを理解し玄関の施錠をしない工夫もしている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全ての職員で虐待について学ぶ機会があり、日頃から話し合いをし防止に努めている		

ふれあいの里 グループホーム 柗

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修にはなるべく参加できるような機会を作り学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に理解、納得をしていただいた上で契約はしている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に一度の運営推進会議には、家族にも出席のお願いをし要望、意見を聞き運営に反映させている		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ミーティングを開き意見交換し提案を運営に反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度7月より、介護分野のみの会社になり職場環境、条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修も行っており外部研修などにも積極的に参加してもらっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での研修、行事などで相互に交流することがあり資質向上に役立っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安、要望があった場合きちんと話を聞き安堵感を与えられるように、個人に合った対応に努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新しく入居される方、また現在入居されている方の御家族と話すときには、不安な事や願い事を聞く様に心掛けています			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居されたご本人と御家族がどのような支援を必要としているのか、御家族と共に考えていく様に努めています			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の立場に立って接するように心がけ、日々に一緒に穏やかな生活が送れるよう信頼関係を深めている			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等、入居者様と一緒に参加できるものは、職員と御家族様が、一緒に本人を支えるような支援をしている			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた方には、再度の来設の声かけしたり行事等への参加の呼びかけをしている			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居間で入居者様がお手伝いなどして下さる時など他入居者様に声をかけていただいたりし係わり合いを持っていただく様支援しています			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係を断ち切らないよう相談等があれば支援している			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の一人一人の意向や、今、何を支援して欲しいかを察してすぐに支援できるよう心掛けています			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	それまでの生活習慣、環境、性格など把握し支援するよう努めています			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録に日頃の変化を記録し常に目を通すようにし本人を注意深く見る様に努めています			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族の意向、本人の意向など聞き取りし入居者様を把握するようにし日々の暮らしの中では、職員間で話し合っている			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの中での少しの変化も見逃さないようにし記録をつけ職員全体で情報を共有しそれに合わせ介護計画の見直しを図っている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の状況に対応できる様サービスにとらわれることなく入居者様にとっての最良なサービスを支援するよう努めている			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会、近隣の保育園、地域住民など交流があり暮らしを楽しまれるよう支援している			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、家族の希望を大切に事業所の近くの医院にて長く、またすぐに受診できるよう支援している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に(1ヶ月に2回)協力病院の訪問看護師が来て下さり相談を受けられるよう支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、頻回に面会に行き、情報を得ている			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に事業所としての方針を説明し、了解を得た上で契約している			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習は、全職員が受けており定期的にも講習をしている			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回色々な想定避難訓練を実地している。消防署、地域の方も参加し総評をいただいている。			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	性格を把握した上で思いやりを持って対応している			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべくひとりひとりの希望や願いを聞くように声かけしたり話しやすいように工夫している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意向を大切にしゆったりとした中で過ごせるよう支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節やその日天候に合わせて洋服を選んだり定期的に美容師さんに来ていただいている			

ふれあいの里 グループホーム 柗

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様一人一人に合った食事の提供、下膳などの力を見極めながら			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	刻み食、ミキサー食、水分量等、一人一人の状態を把握しその日の状態に合わせて支援しています			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけにて歯磨き、うがい、全介助にて口腔ケアをし入居者様の状態に合わせて支援しています			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄のタイミングや習慣を把握しなるべくトイレにて排泄できるよう声かけしている			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を少しでも多く摂取していただけるように好みの飲料を提供したりトイレ誘導時には、歩行運動を取り入れています			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の入居者様の体調や意思を尊重をしながら気持ちよく入浴ができるよう個々にあった支援をしています			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様のその日の状況に合わせて時間を問わず居室にて休息をとっていただくよう支援している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を活用し理解をしたり、スタッフ同士症状について話しあい確認したりしている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌う事が好きな入居者様には、一緒に歌を歌ったり、食事の下準備で、もやしのひげ取り、いもの皮むきなど張り合いが持てるよう支援しています			

ふれあいの里 グループホーム 柗

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的に近隣の保育園を訪問したり市内にある展望台や、お祭り、ショッピングセンター、回転寿司にて昼食を、戸外にて食べたりし希望に添った支援をしています		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人に合わせお金の所持をしてもらったり職員がお金の管理をしたりしながら支援をしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により自由に電話を使用していただいている。職員が仲介し電話をかけたたりもしています		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様手作りの作品を飾ったり、季節にあった花や日本の風習を取り入れできるだけ限り入居者様と一緒に飾りつけを行っています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中で入居者様が過ごしやすいように座る場所などに考慮しレクリエーションを行ったり会話ができるよう空間作りをし支援をしています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が以前から使用している物、好みを考えながら御家族、職員同士相談し支援しています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーは、基本になっている。危険がないよう廊下には、物を置かないなど安全には、留意している		

目標達成計画

事業所名 ふれあいの里 グループホーム 柘

作成日：平成 24年 12月 14日

市町村受理日：平成 24年 12月 14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時における備蓄品は、十分だといえない。 地震、水害時の訓練を行っていない。	備蓄品の準備を進める。地震、水害時の訓練を内部研修として進めていきたい。	早急に備蓄品をリストアップし整備する。 災害時の役割分担を全職員、地域の方とも会議を通して確立したい。	1ヶ月
2	23	日々の記録はしているが、より適切な記録方法を検討しながらアセスメント方法の作成。	ケア記録、モニタリング方法、アセスメント方法など、見直しを行い作成していきたい。	介護計画書に適切に反映できるようなアセスメント方法を全職員で検討していく。	1ヶ月
3	6	法人としての身体拘束のマニュアルは、閲覧できるようにしているが、身体拘束が行われていない点で、全職員が身体的拘束の具体的な行為をすべて理解しているとはいえない。	全職員が身体的拘束に関する理解を深め、意識しながらケアに取り組みたい。	来年度の計画に内部研修を組み込み、身体的拘束の具体的な行為の理解を職員全体にて深めたい。	1ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。